



# 横浜市立田奈小学校 学校だより

平成 29 年 5 月 2 日

5 月号



みのたなくん

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/tana>

校長 二瓶 光代  
Tel 045-981-0009

## 朝会つづき話Ⅱ

### ～続ハヤトウリ物語～

校長 二瓶 光代

「梅干しみたいだね。」

「こんなに硬いのに、よく校長先生は、料理できたね。」

これは、「朝会つづき話コーナー」(1)に来た子どものつぶやきです。コーナーに置かれているハヤトウリを触りに来ているのです。ハヤトウリから芽が出ています。これは、地域の方が、わざわざ届けてくださったものです。地域の方が、「ハヤトウリの種です。」と言って袋から取り出したものを見て、私は、驚きました。小さな粒の種ではなく、ハヤトウリ本体から芽が出ていたからです。芽は、すくすくと伸び、すでに10センチ以上に成長していました。調べてみると、ハヤトウリを育てる時は、実の中の種は取り出さず、実を種瓜として丸ごと埋めるのだそうです。種瓜となったハヤトウリは、食べ物として存在していた頃のみずみずしい実とは違っていました。固くなり、外見がごつごつに変化し、その姿は次の世代を残すための「種」という役割に専念しているように見えました。今年こんなに早い時期にハヤトウリと再会でき、しかも、ハヤトウリは、期待を裏切らず、新たなめずらしさを伴って登場してくれたことに胸が高鳴りました。

早速、「ハヤトウリ物語の続き」として朝会で紹介すると、去年のハヤトウリのことを思い出した子もいました。去年は、地域の方にいただいたハヤトウリの味やめずらしい形を朝会で紹介しました。子どもたちが地域で見つけてきた巨大ハヤトウリも「コーナー」に登場しました。今年は、そこに種瓜の実物や拡大図を置きました。「芽は細くて折れやすいと思うから、実の部分に触ってね。芽が折れたら育たなくなるかもしれないから。」と、私が朝会で話したことを子どもたちは理解して、たくさんの子どもたちが触っても、芽は折られることはありませんでした。そして今日、種瓜を植えました。場所は、子どもたちや保護者の方・地域の方が、見たり、触れたりできるように正門のところですよ。このウリは、いろいろな料理に使えるくせのない味の野菜です。「ハヤトウリの料理調べてよさかな。」というつぶやきも聞こえます。地域の方のご協力で、ハヤトウリの成長を追う活動が生まれました。ハヤトウリは順調にいけばつるをどんどん伸ばし、秋には、何十個もの実をつけます。ご来校の際には、ぜひご覧ください。